

## 【集団下校中、ロリっ娘が私に向かって立ち野しょん】

これは昭和時代の野しょん目撃談です。

私は幼少期の頃、かなりの田舎に住んでいました。それであまりに田舎だったから、近場に学校がなくて、とにかく遠かったんです。大体一時間弱は歩いて通学していました。

それで、行きは単独で通学してたんですけど、帰りは集団下校がお決まりで。男女関係なく皆んなで仲良く下校。ちなみに、私は高学年の人に面倒を見てもらう側の年齢でした。

それで当たり前と言えば当たり前なんですけど、皆んな一時間弱は歩くわけですが、ほとんどのメンバーは途中でオシッコしたくなるんですよね。もちろんロリっ娘も。低学年も中学年も高学年も関係なしに、皆んなで野しょん。ちょっと脇道に入れば田んぼがあったりするので、私もしょっちゅう立ちションしてました。仲の良かったロリっ娘は

「○○くん、一緒にオシッコしよー」

と誘われて連れションしたり。

その子は他の話で書いたロリっ娘でもあるんですけど、これが結構可愛いんです。愛嬌もあるし明るい性格だし顔もいいし。そんなロリっ娘とほぼ毎日、連れション。二人で田んぼ目がけて野しょんする時は、

「どっちが遠くまでオシッコ飛ぶか勝負しよ！」

と言われたり。そういう時はそのロリっ娘、パンツとスカート(ズボンの時もありました)を全部脱いでからしゃがみ込んで、できる限り股間を前に突き出して、『しゅいいー』と音を立てながら、ぴったり閉じた一本筋のワレメから勢いよくオシッコ。ほんとロリっ娘って男子よりもずっと遠くまでオシッコを飛ばしますよね。

「また勝ったー！」

とかよく喜んでたけど、それよりも私はそのロリっ娘のワレメが見たかったから勝負なんてどうでもよくて、ロリっ娘のワレメから放たれるオシッコをよく覗き込んでいました。集団下校だから他のロリっ娘達も来て、真っ白なお尻もワレメも丸出しでオシッコするし。学年関係なく。

それで一回だけなんですけど、少し歩き疲れたので、腰掛けるのにちょうどいいコンクリートに座ってたら、中学年のロリっ娘(当時の私にとってはお姉さん)が私の目の前に来て、いきなりパンツとズボンをずるりと脱ぎだしたんです。あと数センチという近さで、私に向かってワレメを丸出しにして。

「○○くん、ここでオシッコするからどいてくれへん？」

「えー、ヤダ」

「あーもう！ 我慢でけへん！ オシッコかかっても知らへんからな！」